

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和1年7月1日

大分県知事 広瀬勝貞 殿



提出者

住 所 大分県宇佐市大字山本2231-1

氏 名 三和酒類株式会社

代表取締役 下田雅彦

電話番号 0978-32-1431



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	三和酒類株式会社 本社工場
事業場の所在地	大分県宇佐市大字山本2231-1
計画期間	平成30年4月1日から平成31年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	酒類製造業
② 事業の規模	全社の売上高445億4千8百円 (2018年7月期実績)
③ 従業員数	全社362名 (2018年11月1日)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別添、廃棄物等発生と処理工程のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

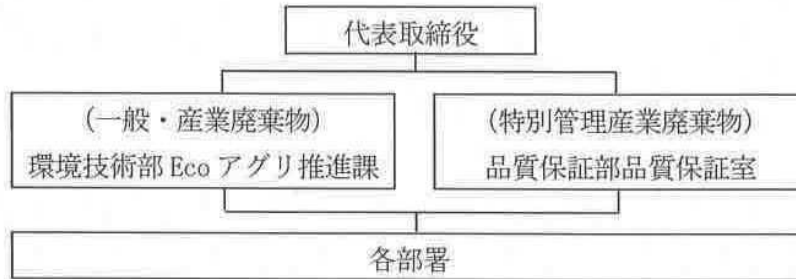
(管理体制図)

統轄管理者 : 代表取締役 下田雅彦
廃棄物担当者 : (一般・産業廃棄物) 環境技術部Ecoアグリ推進課
(特別管理産業廃棄物) 品質保証部品質保証室

(役割)

統轄責任者 : ・廃棄物処理に関する事項の最高かつ最終責任者
管理担当者 : ・廃棄物処理運用管理および改善
・収集運搬業者、処理業者の管理および契約
・電子マニフェスト管理
・監督官庁への各種報告
・社員等に対する教育

(管理体制)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 (別紙のとおり)

①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項 (別紙のとおり)

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項 (別紙のとおり)			
①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

実施なし

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">実施なし</div>		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸（焼酎粕）	
	全処理委託量	3,763 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	1,693 t	t
	再生利用業者への処理委託量	2,070 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	（これまでに実施した取組） <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼肥料原料としての販売を強化し、産廃量削減に取組んだ 		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸（焼酎粕）	
	全処理委託量	3,763 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1,693 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	2,070 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 飼肥料原料としての販路を拡大し、産廃処分量を削減する		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

平成30年度廃棄物等発生と処理工程

2019年7月1日
三和酒類株式会社 本社工場

[トン]

区分	分類	種類	平成30年度実績		平成31年度計画						
			発生量	発生量	自社加工(固液分離・濃縮)工程			社外での取扱量			最終処分量 (埋立処分)
					処理量	処理後残さ量	減量した量	再生量 (飼料・肥料販売)	中間処理量 (産廃処分)	再処理量	
産業廃棄物	廃酸		42,670	40,500	40,500	→10,080	29,462	3,763	6,317	0	0
	動植物性残さ	焼酎粕	0	0	-	958	-	960	0	0	0
	汚泥類	排水処理場脱水ケーキ	922	900	-	-	-	-	0	900	0
		活性炭・イオン交換樹脂	31	31	-	-	-	-	0	31	0
		その他の汚泥類	0	0	-	-	-	-	0	0	0
	廃プラ類	一般廃プラスチック類	26	26	-	-	-	-	0	26	0
		工事発生廃プラスチック類	10	10	-	-	-	-	0	10	0
		鉄くず	9	9	-	-	-	-	0	9	0
	金属類(産廃処分)	廃業ガラス・陶磁器類	3	3	-	-	-	-	0	3	0
		廃アルカリ類	0	0	-	-	-	-	0	0	0
	廃油類	廃油	1	1	-	-	-	-	0	1	0
		電池・蛍光灯	1	1	-	-	-	-	0	1	0
	木屑類	木屑	2	2	-	-	-	-	0	2	0
		その他の産業廃棄物	0	0	-	-	-	-	0	0	0
	計			43,675	41,483	40,500	11,038	29,462	4,723	7,300	0

平成30年度廃棄物等発生と処理工程

令和元年7月1日
三和酒類株式会社 本社工場

